

# 平成26年度 JMAT宮城 研修会

(Japan Medical Association Team)

日時 | 平成27年3月22日(日) 13:00~16:50  
会場 | 勝山館(仙台市)

JMATは、日本医師会が組織する災害医療チームである。具体的には、都道府県医師会ごとにチームを編成し、被災地の医師会からの要請に基づいて、避難所等における医療・健康管理活動を中心として主に災害急性期医療を担う。

宮城県医師会は昨年3月9日、県内の4団体(歯科医師会・薬剤師会・看護協会・医薬品卸組合)とともに「JMAT宮城」を立ち上げ、仙台市内において発足式典を開催した。JMATは、都道府県医師会が単独で設立する例が多く、他の医療関連団体が加わるのは珍しい。昨年の発足式典に先立って行われた研修会において、宮城県医薬品卸組合の一條武理事長は、「医薬品卸は、県内に27か所の物流拠点を持ち、災害用医薬品82品目も備蓄している。災害時の迅速な医薬品供給を目指している。日本の医薬品卸は、毛細血管型物流と言われ、全ての病院・診療所・薬局と取引がある。どこに何があるか、採用品目の把握もしていることが強み」と医薬品卸の役割を強調した。東日本大震災では、卸のMSが得意先を訪問し、各医療機関が機能しているか否かの状況などの情報が集積されていたと言われている。宮城県医師会の嘉数研二会長は「医療分野でオール宮城の体制が整い、東日本大震災で全国から支援を受けた恩返しをしたい」と挨拶した。

昨年の研修会に続き、本年3月22日(日)、仙台市内において「第2回JMAT宮城研修会」が開催され、構成団体の各上部組織による講演が行われた。

今号では、当日の卸連合会国際委員会の村井委員長の講演とそのほかの講演要旨を紹介する。

会場となった勝山館(仙台市)

